

A decorative border of black line art surrounds the text. It features a variety of flowers, including sunflowers, daisies, and small blossoms, interspersed with leaves and scrolling vines. The border is thicker at the corners and tapers towards the center.

# ALL SAINT-SAËNS MATINEE

2台のピアノの午後

サン＝サーンスの午後

TWO PIANOS PLAYED BY

**TETSU MASHIKO**

AND

**MASAKI NISHIHARA**

20 MARCH 2009 (FRI) 16H30

PIANO ART SALON, TSUKISHIMA TOKYO

PRESENTED BY OFFICE PCC

## 第一部

### 1. カミーユ・サン＝サーンス CAMILLE SAINT-SAËNS [1835-1921]

交響詩「オンファールの糸車」作品31  
〔作曲者編曲 2台ピアノ版〕

“LE ROUET D'OMPHALE” – SYMPHONIC POEM, OP.31  
〔ARRANGED FOR TWO PIANOS BY THE COMPOSER〕

カミーユ・サン＝サーンスは、近代フランス音楽を代表する作曲家の一人として広く知られています。特に「動物の謝肉祭」「序奏とロンド・カプリチオーソ」などは一般にも広く親しまれていますが、サン＝サーンスの音楽の懐の深さ、尽きせぬ魅力は、一部の人気作品に留まるものではありません。私たちはかねてより、2台のピアノを通してサン＝サーンスの様々な楽曲に接して来ましたが、今回、新たな気持で、サン＝サーンスの代表作と言うべき三篇の管弦楽作品を、作曲者自身の手になる2台ピアノ用の編曲版を用いて御紹介することと致しました。フランス音楽の最も正統な体现者とも言うべきサン＝サーンスの音楽を知ることは、とりもなおさず、様式美、洗練美、均斉美というフランス音楽の本質に接することを意味します。長い生涯の間に、音楽史のめまぐるしい変転を身を以てつぶさに体験したサン＝サーンスは、フランス音楽史を動かす中心人物であり続け、正統なる主流を外れた傍系に迷い寄り添ったことは一度としてなかったということ、後世の人間は今一度銘記しておくべきでしょう。フランツ・リストに傾倒した青年期のサン＝サーンスは、リストの創始した交響詩のジャンルに手を染め、4篇の交響詩を書きました。プログラム前半は、そのうちの2篇の交響詩を御紹介します。1871年に書かれた最初の交響詩「オンファールの糸車」は、二度の殺人の償いとして、小アジアの女王オンファールの下で奴隷として働くヘラクレスの姿を描いたものです。美しいオンファール女王は、男装の麗人としても知られ、ヘラクレスはその魅力の虜となって三年の間、女王に仕えたということです。この交響詩の献呈を受けた女性作曲家オーギュスタ・オルメスが、神話の女王を連想させる独特の雰囲気を持つ女傑として異彩を放っていたことも、興味深い史実と言えるでしょう。糸車の軽やかな回転、ヘラクレスの呻吟、それをあざ笑う女性のしたたかさが、神話的な高潔さのうちに巧みに織り込まれています。

### 2. カミーユ・サン＝サーンス CAMILLE SAINT-SAËNS

交響詩「死の舞踏」作品40  
〔作曲者編曲 2台ピアノ版〕

“DANSE MACABRE” – SYMPHONIC POEM, OP.40  
〔ARRANGED FOR TWO PIANOS BY THE COMPOSER〕

「真夜中の墓石の上。死神のヴィオロンの奏でる調べ。闇を縫い、中空を飛び交う青白きしゃれこうべ。走り回る死に装束。カタカタ触合う骸骨の音。突然きゃつらは踊りをやめ、押合いへしあい逃げていく。雄鶏が一声、夜明けを告げたから。哀れなる哉、麗しき夜。死と平等に祝福を」(意識)——交響詩「死の舞踏」は、アンリ・カザリス作の怪奇詩に寄せて作曲されました。グロテスクの中に、奇妙な滑稽さが同居します。作曲者自身の手がけた2台ピアノ版も古くから広く普及していますが、その「高い演奏効果」を必要以上に強調して事足りれりとする馴れ合いの姿勢は反省されるべきでしょう。私たちは、あくまでも譜面に忠実に、乾いた怪奇趣味とニヒリズムを表出すべく、即物的解釈に徹したいと思います。



# LE ROUET d'OMPHALE

Poème Symphonique

Par

## C. Saint-Saëns

Op. 31

Parties d'Orchestre . . . . .  
 — — — — — format de poche . . . . .  
 Parties d'Orchestre . . . . .  
 Chaque partie séparée . . . . .  
 Transcrits pour petite Orchestre par R. BOUTON.  
 Émile-Clément Durand et Co. succ.  
 Piano conducteur et parties d'Orchestre . . . . .  
 Piano conducteur . . . . .  
 Chaque partie séparée . . . . .

Plus à 2 notes par l'Arrêt . . . . .  
 Plus à 4 notes par E. GUREAUD . . . . .  
 2 Plans à 4 notes par l'Arrêt . . . . .  
 2 Plans à 4 notes par L. BODÉES . . . . .  
 Violon et Piano par A. SALER . . . . .  
 Violoncelle-Transcriptions pour Piano par A. SEIBER.  
 Ex. 101 : Piano, Violon et Violoncelle ; avec Contrabasse et Clarinette ad lib. par R. BOUTON.  
 (Copyright by Durand et Co. succ.)  
 Plus à 4 notes, Violon, et Violoncelle ad. lib. . . . .



DURAND & Co, Éditeurs - PARIS

4, Place de la Madeleine, 4

Direct. Gén. Publications Int. London

Edouard-Fréd. C., Philadelphie, Pa (U.S.A.)

Droits réservés. Toute réimpression, sans autorisation, est formellement interdite.

Made in France  
Imprimé en France

## Le Rouet d'Omphale.

Poème symphonique.

Ridut à deux Pianos

C. SAINT-SAËNS

Andantino.

PIANO I. *pp* *en accélérant peu*

PIANO II. *pp* *en accélérant peu*

*à peu le mouvement*

*rit. cresc.*

*cresc.*

## 第二部

### 3. カミーユ・サン＝サーンス CAMILLE SAINT-SAËNS

交響曲第3番 ハ短調 作品78「オルガン付き」  
[作曲者編曲 2台ピアノ版]

SYMPHONY No.3 IN C MINOR OP.78 "ORGAN"  
[ARRANGED FOR TWO PIANOS BY THE COMPOSER]

#### 第一楽章 FIRST MOVEMENT

- I. アダージョ — アレグロ・モデラート  
ADAGIO — ALLEGRO MODERATO
- II. ポーコ・アダージョ  
POCO ADAGIO

#### 第二楽章 SECOND MOVEMENT

- I. アレグロ・モデラート  
ALLEGRO MODERATO
- II. マエストーソ — アレグロ  
MAESTOSO — ALLEGRO

「オルガン付き」との通称で呼ばれる「交響曲第3番」は、サン＝サーンス51歳(1886年)の壮年期の所産です。同年5月に作曲者自身の指揮によりロンドンで初演され、圧倒的な成功を勝ち得ました。以来、今日に至るまで、フランスを代表する重要な交響曲の一つであり続けています。サン＝サーンスは厳格な古典主義者でもありましたが、単なる擬古典に留まる人でなかったことは、この作品の個性的な構築方法を見ても明らかです。本作は、大きな二つの楽章からなり、それぞれの楽章はさらに2部ずつに分けられています。これは、伝統的な四楽章構成を圧縮した構造であると説明されます。また、楽曲全体を通して共通の動機、主題を登場させる、いわゆる「循環技法」を用いることにより、楽曲に重厚な統一感が具わっていること、さらには、オルガンの名手でもあった作曲者が、実地の演奏経験に裏打ちされたオルガン書法と、円熟した管弦楽法とを融合、調和させることにより、豊かな色彩が引き出されていることも特筆されます。第一楽章は悲愴感を秘めたアレグロと、静謐・敬虔なアダージョの対比が見事です。第二楽章は、焦燥感を煽るようなスケルツォ(アレグロ)を経て、絢爛たるフィナーレに至ります。管弦楽とオルガンの織り成す天上的なまでの音響は、現代の最先端のシンセサイザーを以てしても及ばぬ高みに達しています。この第三交響曲について、作曲者は、「私の持てる全てを注ぎ込んだ」「私はもう二度とこのような作品を書かないであろう」と語ったといひます。作曲者自ら最高傑作であると認めたこの作品には、作曲者自身の手になる2台ピアノ用編曲が存在します。大規模な総譜(スコア)が2台のピアノへと忠実に再配置された上、万華鏡のように移ろう音色の妙は、多彩なピアノ書法を駆使することで見事に再現されます。この編曲自体が、独立した固有の価値を有する2台ピアノ作品たり得ていることに驚かされます。この傑出した2台ピアノ作品を手がけるにあたっては、壮麗な音響は強いて意識せず、美しい音の綾と、洗練された楽想の流れを虚心に再現することに徹することが肝要かと考えています。私たちが、「オルガン付き」の2台ピアノ版を知ってから、十年の月日が流れました。十年前の新鮮な驚きと感動を忘れず、これからも前に進み続けたいと思っております。

# 3<sup>me</sup> SYMPHONIE

à 2 Pianos  
par l'AUTEUR

C. SAINT-SAËNS  
Op. 78

I  
2<sup>e</sup> PIANO

Adagio 76 = ♩

PIANO

pp mf pp

2<sup>e</sup> Piano

p mf

Alleg. moderato 72 = ♩

1<sup>er</sup> Piano

3<sup>e</sup> Piano

sempre p mf

Tous droits d'exécution réservés.  
A. Durand et Fils Editeurs, Paris. A. Plue de la Madeleine.  
Dat. P. 1974

## \* 演奏者紹介 \* PIANISTS

益子 徹 (第一ピアノ)  
TETSU MASHIKO (PIANO I)

1976年栃木県生まれ。宇都宮大学卒業。  
北英国王立音楽院 (RNCM) ピアノ伴奏科修了。

西原 昌樹 (第二ピアノ)  
MASAKI NISHIHARA (PIANO II)

1972年岡山県生まれ。上智大学卒業。

\* お問い合わせは 090-8443-3927 川崎 に。 e-mail は [pccpiano@hotmail.com](mailto:pccpiano@hotmail.com) に。

\* ウェブサイトを開設致しております。 <http://www16.ocn.ne.jp/~pccpiano>  
コンサート開催情報やライブCD販売情報等、随時更新してお知らせ致しております。

\* コンサート日記 \* OUR CONCERT HISTORY

- 2001年2月24日 坂本区民会館小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(I)とドマーズ><SAINT-SAENS ET J.-M. DAMASE>
2001年6月2日 トモホール(市谷) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><Demi-Clasique et Saint-Saens>
2001年10月13日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(III)><Augmentin Saint-Saens>
2001年11月24日 横濱スタジオ クレメンティ生誕250年に向けて「PRE-250TH ANNIVERSARY OF MUZIO CLÉMENTI」
2002年1月6日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの午後<モザール(S1)とサン=サーンス(IV)><Demi-Clasique et Saint-Saens>
2002年3月17日 新信文化センター小ホール(原 智恵子夫人を偲んで) (昭和25年の演奏会の曲目による) <In the Memory of Madame Chieko Hara de Casado>
2002年5月11日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(II)><PARIS & VIENNA>
2002年7月14日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(III)><PARIS AND VIENNA>
2002年9月7日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(IV)><THE CENTENNIAL OF THE CENTENAL OF RICHARD RODGERS>
2002年11月10日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(II)><PARIS & VIENNA>
2003年1月18日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<サン=サーンス(III)><ENGLAND & FRANCE>
2003年3月21日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<地中海から南米へ><AN IMAGINATIVE TRIP TO SUL-AMERICA>
2003年4月19日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><ALEXANDRE TANSMAN>
2003年5月8日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(III)><THE CENTENNIAL OF RICHARD RODGERS>
2003年6月15日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(IV)><MIDSUMMER EVENING CONCERT I>
2003年8月16日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><MIDSUMMER EVENING CONCERT II>
2003年9月7日 新信文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(III)><MIDSUMMER EVENING CONCERT III>
2003年12月17日 横濱音楽区民会館 丸の内スタジオ(2台) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><TWO-PIANO SOLO CONCERT>
2004年1月28日 横濱音楽区民会館 丸の内スタジオ(2台) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(III)><RECYCLES DES JEUX SANS MUGES - LA MUSIQUE DE REYNALDO HAHN>
2004年4月7日 (マナホ) 横濱音楽区民会館 丸の内スタジオ(2台) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><LA CHEVEE ET LE LOUP DES ANDEANES - KOECHLIN ET SCHMITZ>
2004年4月7日 (マナホ) 横濱音楽区民会館 丸の内スタジオ(2台) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(III)><LA TRIBUTE TO ALEXANDRE TANSMAN>
2004年8月14日 横濱音楽区民会館 丸の内スタジオ(2台) 2台のピアノの夕べ<モザール(S1)とサン=サーンス(II)><A LA CARTE OF THE FRENCH MUSIC FOR TWO PIANOS>
2004年9月4日 池田サロ(横浜) <欧州音楽紀行 晩夏に贈る名曲の花束><European Musical Promenade Late Summer Concert>
2004年12月26日 (マナホ) 池田サロ(横浜) <欧州音楽紀行 冬に贈る名曲の花束><European Musical Promenade Winter Concert>
2005年4月9日 マイスバースアスタ(渋谷区) <フランス音楽紀行 晩夏に贈る名曲の花束><MUSIQUE DE COUR PAR DEUX PIANOS>
2005年7月16日 ヒアノートサロン(中央区月島) <欧州古典音楽紀行><CLASSICAL GEMS FOR TWO PIANOS>
2005年8月6日 ヒアノートサロン(中央区月島) <欧州古典音楽紀行 晩夏に贈る名曲の花束><AN IMAGINARY MUSIC FESTIVAL IN LONDON IN MID-19th Century>
2005年9月3日 ヒアノートサロン(中央区月島) <ナポレオンの晩夏に贈る名曲の花束><RENDEZVOUS WITH NAPOLEON BONAPARTE>
2005年10月11日 ヒアノートサロン(中央区月島) <秋のプラハ><REFLECTION OF AUTUMN PLAGUE>
2005年11月5日 ヒアノートサロン(中央区月島) <秋のプラハ 2台のピアノのための即興曲 同: 2台のピアノのための3つのデュオ舞曲>
2005年12月11日 ヒアノートサロン(中央区月島) <世界音楽紀行><EXPLORING THE WORLD MUSIC>
2005年12月25日 ヒアノートサロン(中央区月島) <クリスマス音楽紀行 2台のピアノのための即興曲 同: 2台のピアノのための3つのデュオ舞曲>
2006年1月29日 ヒアノートサロン(中央区月島) <欧州音楽紀行 晩夏に贈る名曲の花束><ROMANTIC ANTHOLOGY FOR TWO PIANOS>
2006年3月21日 ヒアノートサロン(中央区月島) <レガンス><THE TASTE OF PARISIAN ELEGANCE>
2006年4月9日 (マナホ) ヒアノートサロン(中央区月島) <欧州音楽紀行 晩夏に贈る名曲の花束><PLATINUM OPERATIC AIRS FOR TWO PIANOS>
2006年5月21日 ヒアノートサロン(中央区月島) <ミラノ音楽紀行 同: 2台のピアノのための即興曲 同: 2台のピアノのための3つのデュオ舞曲>
2006年6月10日 ヒアノートサロン(中央区月島) <名曲の花束 2006><MASTERPIECES OF 2006 ANIVERSARY COMPOSERS>
2006年6月24日 ヒアノートサロン(中央区月島) <白鳥の歌><LES DERNIERS CHANTS DU CYGNE>
2006年7月16日 ヒアノートサロン(中央区月島) <モザール(S1)とサン=サーンス(II)><THE TASTE OF PARISIAN ROMANTICISM>
2006年7月30日 ヒアノートサロン(中央区月島) <ウィーン音楽紀行 同: 2台のピアノのための即興曲 同: 2台のピアノのための3つのデュオ舞曲>
2006年8月12日 ヒアノートサロン(中央区月島) <レコ・ディ・ナポリ><LECO DI NAPOLI>
2006年9月2日 ヒアノートサロン(中央区月島) <故郷の作曲家たち><THE GLOBETROTTER-COMPOSERS>
2006年9月17日 ヒアノートサロン(中央区月島) <モザール(S1)とサン=サーンス(II)><REGENCY OF BARBENTONIA>
2006年10月22日 ヒアノートサロン(中央区月島) <20世紀の発見たち><The Arant-Garde Masterpieces for Two Pianos>
2006年10月29日 ヒアノートサロン(中央区月島) <シチリアの王子><PRINCE OF SICILY>
2006年11月11日 ヒアノートサロン(中央区月島) <ロンドン音楽物語><DUAL PORTRAITS OF LONDON>
2006年11月23日 ヒアノートサロン(中央区月島) <アメリカンクラシック><AMERICAN CLASSICS ON TWO PIANOS>
2007年1月28日 ヒアノートサロン(中央区月島) <モザール(S1)とサン=サーンス(II)><THE CENTENNIAL OF RICHARD RODGERS>







C. SAINT-SAËNS